



ローカルFM局が野外フェスで繋ぐ
この街の誇りと未来

株式会社エフエム長崎 代表取締役社長
スカイジャンボリー統括プロデューサー
村川 和彦

SKYJAMBOREE 稲佐山公園野外ステージ 1万人



はじめに。

スカイジャンボリーは1999年にスタート、コロナ中止を経て、今年25回目を無事終了しました。集客2千名程度で始めたこのフェスは、今では国内各地から1万人が集まるフェスに育ちました。

さて、「1万人」の価値を地域換算すると…

長崎のライブハウス「DRUM Be-7」 キャパ350人 を完売できるアーティストは、
日本武道館キャパ約10,000人 が完売できる。と言われています。 **約30倍。**

ということは、

長崎 1万人 = 首都圏 30万人！

東京ドーム6回分。あのGLAY20万人ライブをも上回ります。



(1) 「場所性」に根差す理念の構築

なぜ、日本の西の端のローカルFM局が、野外音楽フェスティバルを
ロッキン、サマソニよりも早く立ち上げ、27年続けてこられたのか？

◎長崎の街の歴史と県民気質 「誇り」と「祈り」の文化

+

◎エフエム長崎の自由な社風とローカル局ならではの気軽さ

(1) 「場所性」に根差す理念の構築

◎長崎の街の歴史と県民気質

長崎は「誇り」と「祈り」の街です。

鎖国時代、ここが日本の文化の始まり、という感性の「誇り」。

原子爆弾投下による悲しい歴史、その痛みに対して「怒る」のではなく、この街を最後にしてください、という「祈り」。

この偉大なる先人からの教え、想いが根付いていて、

これこそが「祈りの街・長崎」の最大の強さだと思います。

「誇り」「祈り」>「悲劇」。自分自身に「誇り」「想い」をもっている街。

流行とかも、他の街で流行っている、の理由で、それがいいとは思わない。

自分の目で耳で心で感じて「自分の好き」を決める。自分を持った街。

(1) 「場所性」に根差す理念の構築

◎エフエム長崎の自由な社風とローカル局ならではの気軽さ

エフエム長崎は1982年、日本で7番目のFM局として開局。今年43周年。

親会社や株主に放送局が入ってなく、放送局らしさ（それが分からず）より、
純粹にいい音楽を届けること、長崎が元気になることを第一と考えている局。

イベント（会社組織）がない長崎の中で、**イベント代わり**として、
音楽事業に特化。「音楽のことば FM」 県民からもその立ち位置と認識されています。

また、スポンサーの番組もそう多くなく、割と自由に選曲、編成が決定でき、
自分達がいいと思うものをリスナーに届ける、ある種真っ当な番組作りが可能。

東京や福岡に迎合することなく、ここ長崎が楽しい街になるように、私達が信じる
アーティストを応援し、**長崎でその音が鳴ることに意味を感じているラジオ局**です。

一例) 「レゲエ・ジャパンスプラッシュ in Kyusyu」

1989～1998 @ 長崎外港 伊王島（当時離島）特設ステージ



*イベントパッケージ買取 自主興行

一例）「レゲエ・ジャパンスプラッシュ IN KYUSHU」

県民性：自分の感性を信じている。東京で流行っているの理由でそれがいいとは思わない。

自分の目で耳で心で感じ「自分の好き」を決める。

当時、音楽の入口はほぼFM長崎。FM長崎が選ぶ音楽の責任は重大。

全国ブレイク前から「spitz」「KAN」「槇原敬之」「斎藤和義」など長崎では人気。



FM長崎：1980年代 当時のイカした放送部長がレゲエに傾倒。

レゲエミュージックのオンエアー率が異常に高くなる。局には苦情も。

1989年 「レゲエ・ジャパンスプラッシュ」第1回開催

出演：デニスブラウン、フレディマグレガー、シャインヘッド、NAHKI 他
まだレゲエブームが到来する前。会場は陸続きではない離島の伊王島
伊王島をリトルジャマイカと勝手に言い出す。

当初は動員含め2000人程度。県民性も伴い、レゲエが長崎で浸透していく。



1990年代 日本にレゲエブーム到来（時代が追いつく）。入場者は1万人を超える。

ブームは続いている中、1998年、あっさり10年でやめる。

「レゲエ・ジャパンスプラッシュ in Kyusyu」 1989～1998 @伊王島特設ステージ



最大12,000名集客

1989～1998年まで10年開催。 * 1997年は台風で中止。

Sky Jamboree の誕生

1万人を集める「レゲエジャパンスプラッシュ」をあっさり終了し、1999年、次のチャレンジへ。

コンセプト 1990年後半、メジャーレーベルからではなく、自主レーベルからリリースされる、ヒットチャートを意識しない様々なスタイルの音楽が生まれ出していた。

代表格 MONGOL800、KEMURI、GOING STEADY、POTSHOT、SNAIL RAMP 他
そんな自由な音楽性を持つ、私達が信じるバンドと一緒にメッセージを発信する。

中心人物 Sky Jamboree初代プロデューサー 有森勝郎 (FM長崎)
KEMURI 伊藤ふみお氏

メッセージ **one pray in nagasaki** 伊藤ふみお氏からいただく。

第1回開催 Sky Jamboree'99～one pray in nagasaki～ 7/25(sun)@稻佐山公演野外ステージ
出演：KEMURI/POTSHOT/RUDE BONES/YOUNG PUNCH/GELUGUGU
博多サイコス/SKA ROCKETS/DASHING STRAIGHT/SUB/FANTASYS CORE

SKYJAMBOREE会場風景 1DAY & 1STAGE



Sky Jamboree 変遷

1999～

創世期



KUMURI
POTSHOT
YOUNG PUNCH
SNAILRAMP
PENPALS
GOING STEADY
smorgas
etc.

2002～

青春パンク



10-FEET
175R
ガガガSP
STANCE PUNKS
太陽族
THEイナズマ戦隊
ジャバハリネット
etc.



Sky Jamboree 変遷



2006～

2011～

第1次成長期

第2次成長期



ELLEGARDEN
BEAT CRUSADERS
ザ・クロマニヨンズ
Ken Yokoyama
the pillows
サンボマスター
マキシマムザホルモン
BOOMBOOMSATELLITES
MONKEY MAJIK
m-flo
RADWIMPS etc.

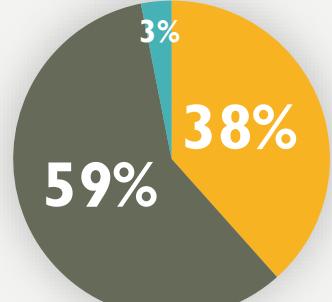
ストレイテナー
ONE OK ROCK
MAN WITH A MISSION
東京スカパラダイスオーケストラ
Dragon Ash
斎藤和義
RIPSLYME
サカナクション
SUPER BEAVER
マカロニえんぴつ
Vaundy etc.



Sky Jamboree 来場者 性別／世代別シェア

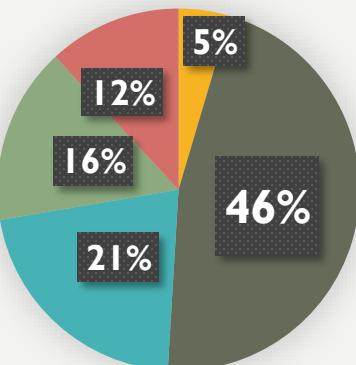
2023年 Vaundy／SUPER BEAVER

性別シェア



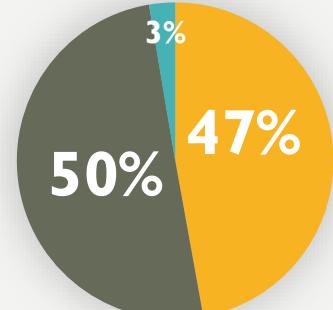
■男性 ■女性 ■その他 ■

世代別



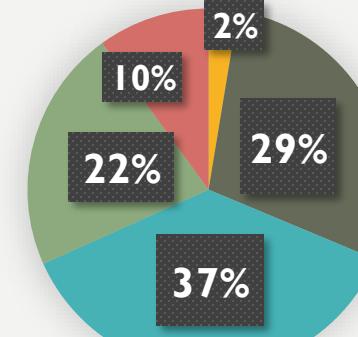
2024年 ELLEGARDEN／ホルモン

性別シェア



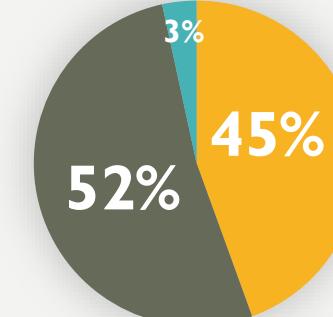
■男性 ■女性 ■その他 ■

世代別



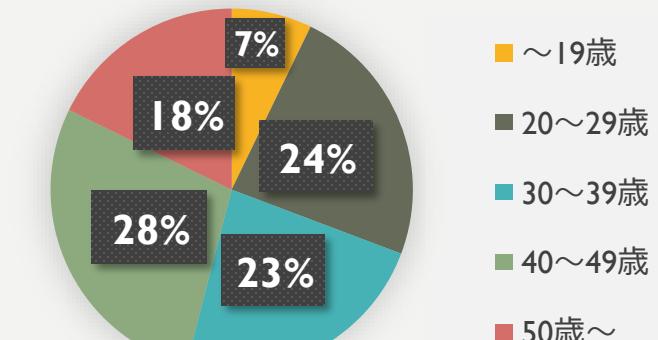
2025年 BRAHMAN／マカロニ

性別シェア

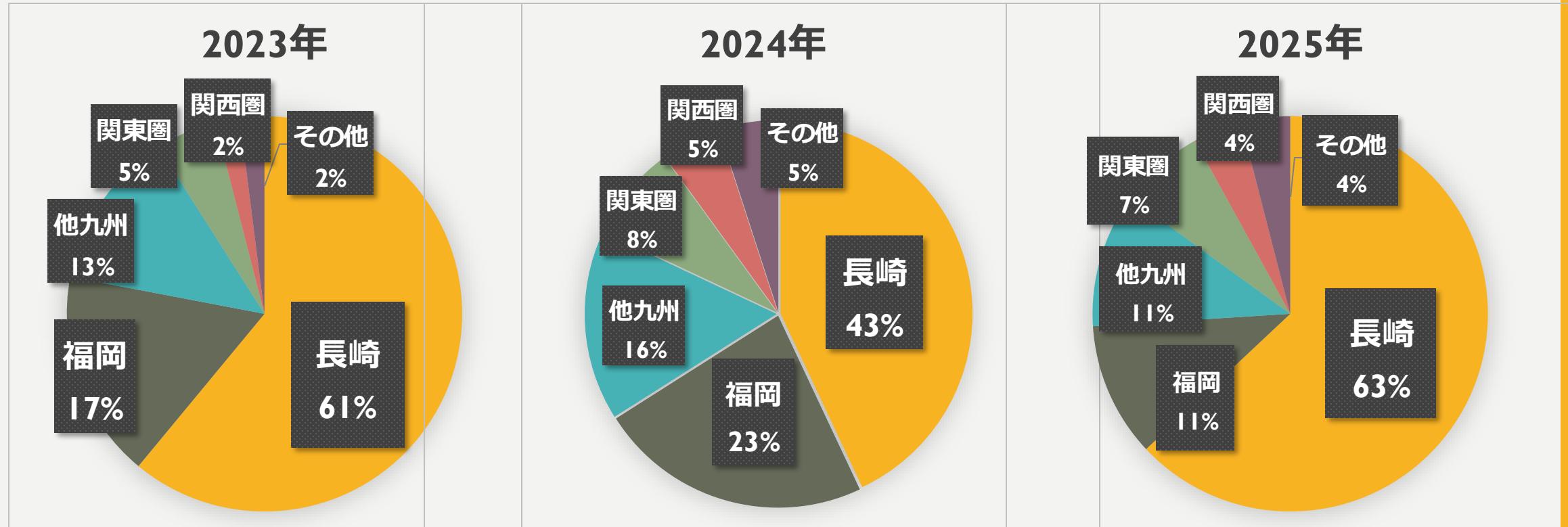


■男性 ■女性 ■その他 ■

世代別



Sky Jamboree 来場者 エリア別シェア



* ELLEGARDEN この年九州ではスカジャンだけ

(2) 地域社会との協働

FM長崎社員数15名。

私達だけでは、このフェスを運営することは不可能です。

長崎市役所、警察、消防、行政機関の皆様、

長崎のＪＲ、電車、バス、タクシー、交通機関の皆様、

長崎・福岡の設営、音響照明会社の皆様、

長崎及び九州各地のサポート企業、スポンサーの皆様、

長崎及び九州各地の放送、雑誌、webメディアの皆様、

チケット販売の全プレイガイドの皆様、

福岡のイベント各社の皆様、

出演いただくアーティスト及びスタッフの皆様

そしてなにより、稲佐山に集まつていただくオーディエンスの皆様、

支えていただくこの皆様すべての方が「Sky Jamboree」を愛していただいている。

「Sky Jamboree」はみんなのフェス。これこそが27年続けてこれている最も大きい要因です。



ポスターを県内約500ヶ所の飲食店に掲示

(3) 「ラジオマン」が創るフェス

[フェスの主催]

- バンドマン主催... 10-FEET「京都大作戦」、SiM「DEAD POP FESTIVAL」
WANIMA「1 Chan Fes」、SHANK「BLAZE UP N」 etc ***バンド間絆強力**
- イベント主催... フジロック、サマソニ、ライジング、アラバキ、ラッシュボール
モンバス、ワイバン、ナンバーショットetc ***制作の繋がり強力**
- 媒体／行政主催... ロッキン、ラブシャ、802レディオクレイジー、FM栃木ベリテン、
宮崎UMKジャムナイトetc ***制作運営はほぼイベント**

Sky Jamboreeは、FM長崎が企画制作・ブッキング・チケット販売・設営・運営・営業
全てを主体的に実施。プロデュースしています。

(3) 「ラジオマン」が創るフェス

Sky Jamboreeらしさ、FM長崎らしさとは。大切にしていること。

ラジオは「あなた」と「私」 1対1のメディアです。

たとえて言うと、テレビメディアは、アリーナ会場5万人のお客さんに、

ステージ上から「皆さん！」と呼びかけます。

私達は、会場のひとりひとり「あなた」へ話しかけます。その糸が5万本繋がっている。

ラジオはそんなメディアです。

ラジオマンが創る「Sky Jamboree」も、そうでありたい。

常に「あなた」と1対1、映像が無い音声メディアのラジオマンが言うのも変ですが、

誰が創っているのか、「顔が見えるフェス」そんな関係であり続けたいと思っています。

これからも、出演者・スタッフ、そしてオーディエンスの皆さん一人一人と
真っすぐ向かい合っていきたいと思っています。

わたし的、超個人的なスカジャンブッキングの方程式。

絶対忘れてはいけない基本精神

1. 魂のある、メッセージのある、愛のあるバンドであること。 **(長崎からの発信)**
2. 私達があなたに伝えたい、知ってほしいバンドであること。 **(ラジオマインド)**
3. リトルロッキン、リトルナンバーショットにはならない。 **(スカジャンらしさ)**

このポリシーのもと、経験上考えた独自ルール

1. 全出演バンド中、好きな・気になるバンド・アーティストが最低3組はいる。
2. 集客と予算のバランス的に、アリーナクラスが1~2組、大ホールクラス1~2組、ZEPPELINクラス（中堅）3組程度、LOGOSクラス（若手）3組程度。Be-7クラス1組。
結果...近年は、ほぼ武道館クラス以上になってしまっています。

+

今年得たもう1つのルール

- ◎単独公演で、チケットが取れにくい、簡単に観れないアーティストが必要。

2023



2024



(4) 地域活性化への具体的影響

Sky Jamboree のお客様は、長崎市内 4 割。長崎県内だと 6 割。

約 10,000 人が、長崎市で飲食をし、シャトルバス・タクシー等市内交通機関を利用、

約 6,000 人が、AIR、新幹線、JR、高速バス、公共交通機関を使い、

約 3,000 人が、宿泊し、観光し、お土産を買って帰る。

直接的な経済効果だけでも数億円の地域貢献をしています。

加えて、私達の役割は「**子供たちの誇りとなり、彼らの可能性を広げる**」こと。

スカジヤンに参加した子供たちがミュージシャンとして戻ってきてくれることが夢であり、音楽芸術の分野だけではなく、自分が目指す・輝ける世界へ、この街を誇りに思って、「祈りの心」を大切に、強くそして優しく育っていってくれることを願っています。

(4) 地域活性化、祈りの継承、新たな取り組み

《ONE PRAYプロジェクトの立ち上げ／企画主旨》

平和を祈る街・長崎で、大切な夏・8月に開催するロックフェスとして

私達が掲げたテーマが「one pray in nagasaki」

音楽を精一杯楽しめる幸せ。その喜びを感じ、いまここにある平和に感謝し

世界中の人達が穏やかに暮らせることを祈る。そんな願いを込めています。

2025年、長崎は被爆から80年を迎えます。しかし、いまだ世界では争い、核兵器の脅威は消えません。

SkyJamboreeも今年開催25回目という節目を迎えます。いま、私たちができること

«核兵器より楽器を、争いより音楽を»

世界中が音楽に溢れ優しい気持ちになることを願い、楽器を贈るプロジェクトを始めます。

音楽の力を信じ、子供たちの明るい未来を願って、動き始めます。



FM長崎 SKYJANBOREE 「ONEPRAYプロジェクト」

実施要項



[実施内容] Sky Jamboree売上的一部分で楽器を購入し、音楽部、サークル、施設、団体へ贈ります。

対象) 小中高校の音楽系部活、大学短大専門学校の文化部・サークル、社会人団体、
幼稚園・保育園、子供会、学童、老人ホーム、病院、施設等

[応募方法] FM長崎の放送・webサイト、Sky Jamboreeのwebサイトで、楽器が欲しい団体を募集。

応募いただいた中から希望内容を考慮して寄贈する団体・楽器を決定します。

[到達目標] 世界に存在する現役核弾頭の数（2026年6月現在9,615）を上回るまでこの活動を続ける。

これからと課題

地方の特色が薄まってきています。

長崎でレゲエが流行ったように、大阪はブルース、名古屋はヒップホップなど
それぞれの街でそれぞれの文化が育っていました。

しかし、サブスクの登場と共に、地方色が薄れだし、日本が単一化してきています。
ある程度動員が必要な大型フェスは、どこも同じキャスティングになってしまふ。

温暖化・熱中症問題、物価上昇によるチケット代の高騰、旅費・宿泊費も上がり、
フェス選び（これまで多数行ってた人も1つに絞る）、フェス離れが始まっています。

野外フェスの根本的な見直し、「らしさ」の追求が求められています。

最後に。

私達がSky Jamboreeをやり続ける理由。

私達はこの街・長崎を愛しています。

ほんの80年前に、この街を襲った悲劇、受けた痛み、悲しみ。

それを「こんなことは、ここで終わりにしましょう」と乗り越えてきた先人の強さ。

私達の誇りです。今を生きる私達は、この「祈り」を守り伝えていく責任があります。

～ one pray in nagasaki ～

このメッセージのもと、これからも、音楽のチカラを信じて進んでいきます。

Sky Jamboree というフェスがあり続けることが、この街の元気に、

そして子供達の勇気になれるよう、夏・長崎から「one pray」の発信は止めません。



今回の発表で思い起こさせて頂いたこと。

Sky Jamboree をやり続けることで、少しでも平和な世界へのチカラになる。

のではなく、

Sky Jamboree を毎年やれ正在が、平和の証。

Sky Jamboree を毎年楽しめ正在が、平和の証。

毎年、稻佐山に集まって、この想いをみんなで共有すること。

これこそが、私達が Sky Jamboree を続けていく意義です。

今回、この想いを思い起こさせて頂きありがとうございました。

one pray in nagasaki

ご清聴ありがとうございました。

